

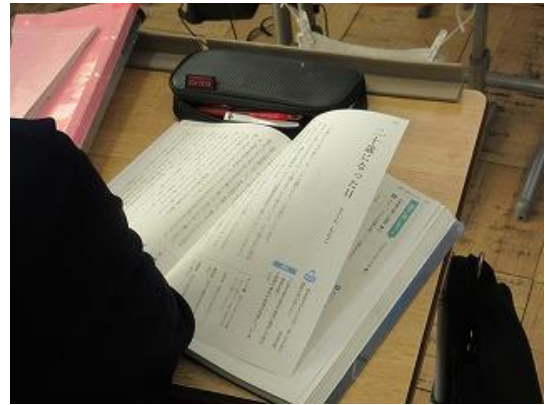
# WEST LIFE

## 校長の目

令和8年2月16日(月)



1年生の国語は、随筆の学習でした。教材は、「二十歳になった日」。漫画「ちびまる子ちゃん」の作者・さくらももこさんのエッセイで、「たいのおかしら」に収録されています。さくらさんの二十歳の誕生日のこと。ひとりでまっすぐに続く道を歩いていってみようと思えます。寄り道をしながら長い時間歩き続け、日が暮れてからケーキを買って家に帰りました。さくらさんは、これまで味わったことのない充実した気持ちになり、このときの気持ちは今も大きな糧になっている、という粗筋です。「これからは自分で人生を切り開いていかねばならない」という二十歳のさくらさんの決意が感じられます。本時は、第一時でしたので、生徒が初発の感想をもつことがねらいでした。このあとは、筆者の思いや考えが伝わる表現について、その表現の効果を考えたり、構成の工夫を話し合ったりしていきます。



私は、二十歳の誕生日をスウェーデンで迎えました。あるスポーツの大会でヨーロッパを転戦していたのです。誕生日は、チームの仲間が祝ってくれました。ちょうどその日に父親から手紙が届きました。「自分の足でしっかり立ち、人生を切り開いている息子を誇りに思う。」と書かれていました。私の父はとても厳格だったので、ほめられたことなどそれまで一度もありませんでした。そんな父に反発していた自分のことも嫌でした。その父からの手紙を読み、思いがけない言葉をかみしめトイレで涙を流していたら、ノルウェーの選手に「なんで泣いてるの？」と声を掛けられました。手紙を見せながら、「初めて父親にほめられた。」と説明したところ、「いい父親だな。大切にしろよ。」とニコニコしていました。父の言葉で、成人になることの重みと責任を感じました。

法改正があり、今は18歳で成人です。多くの子供は、高校生のうちに成人と認められることとなります。中学校を卒業してわずか3年後です。何を体験し、何を積み上げ、成人としてのどのように決意と覚悟を持てるのか、答えはありません。さくらさんのように、何気ない日常の中で、自ら変化させる一日を自分で決めていくことなのかもしれません。または、私のように、家族など周囲の人々の言葉で気づかされるのかもしれません。生徒たちが、「二十歳になった日」を読んで、どう自分と向き合っていくのか興味があります。

3年生は定期試験が終わりホッとしたのも束の間、県公立高校受験まであと10日です。最後の追い込みであり正念場です。社会の授業では、受験対策となるような問題演習を行っていました。配られたプリントは、地理分野です。方位、縮尺、等高線に関する問題に取り組んでいました。生徒たちは、「社会科は暗記科目だ」とよく言っていますが、縮尺や等高線の問題には計算も必要です。25000分の1縮尺図の上で6cmは、実際の距離に換算すると何mになるか等の問題で天を仰いでいる生徒もいました。答えは1500mです。みんながんばれ！

